Dialog Vol.163

世田谷区民合唱団会報

2023－3
2023.8.9

令和５年度合唱祭に参加しました

第 78 回東京都合唱祭が新宿文化センター大ホール・第一生命ホールで開催されました。抽選の結果７月８日（土曜日）Ｌブロック（17:45～19:45）新宿文化センター大ホールでの参加が決まりました。10 番目の出演でした。コロナ禍による大会中止や団の参加見合わせ等で久しぶりの出演となりました。

演目は「おお雲雀」と「流浪の民」、指揮坂本秀明先生、ピアニスト尾島紫穂先生です。集合、リハーサルはマスクを着けて行いましたが、本番ははずして歌いました。参加のほとんどの団体がマスクを付けずに歌っていました。ただ、着替えとリハーサルの時間が少なく十分な発声ができないまま客席に向かい待機となりました。不安を隠したままステージに立った方もいらっしゃったかもしれませんが、さすが本番に強い世田谷区民合唱団の面目躍如ということでしょうか？ステージでは実力を発揮できたようで、他団体からたくさんお褒めの言葉を頂きました。

東京都合唱祭を終えて

音楽監督　坂本　秀明

出演された35名の皆さま、お疲れ様でした。私たちが出演した、7月8日(土)のLブロックは、遅い時間ということもあり、大学のサークル等、比較的若い合唱団が多く、そのレヴェルの高さにまず圧倒されました。

しかし、今回、2度の特別練習、そして、定期練習後の15分間の出演者のみによる練習の成果が出て、今できる最大限の力を発揮してくれました。

1曲目の「おお雲雀」は、最初の35名の練習では、G-durで始まり、F-durで終わるという音程の下がりぐあいでしたが、本番では無事にG-durで終わりました。ドイツ語の発音も、一人一人が真剣に取り組んでくださり、表情がつくまでになりました。

2曲目の「流浪の民」は、異国情緒に富んだエキゾティックな演奏ができたと思います。ソプラノ･ソロの葛西裕子さん、菊地順子さん、アルト･ソロの深見夏野さん、テノール･ソロの大野賢一さん、バス･ソロの神保仁士さん、よく頑張りました。それぞれとてもよかったです。

2回目の特別練習では、2つのグループに分かれて、各パート4人ずつでお互いに聴き合う練習をしました。その成果も大きかったと思います。

2回の特別練習のピアノで支えてくれた西谷先生、本番の尾島先生、ありがとうございました。

今度は10月1日の定演に向けて、さらにステップアップしたいと思いますので皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

ピアニスト　尾島　紫穂

先日は東京都合唱祭にご一緒させていただき、ありがとうございました。

アカペラで音取りが難しい事もあり、練習の段階では、実はひそかに心配しておりました。それでも皆さん追い込みでしっかり練習をされ、本番のステージで一番良いパフォーマンスを披露されているのを間近で拝見して、感激してしまいました。「流浪の民」も、坂本先生のご指導通り、歌詞の内容をしっかり表現されて、メリハリのある、素敵な演奏でした。

前の団体の発表を聴きながら、こんなにも大きなステージで、お客様もたくさんいらっしゃって、各パートのソロの方々はどんなに緊張されるだろう、と考えておりましたが、皆さんとても素敵に歌ってくださり、お一方お一方それぞれとアンサンブルをすることができている感覚があり、私も楽しかったです。

毎週の練習はもちろんですが、本番の舞台を積み重ねていくことで、それぞれが能動的に音楽を表現する責任を持てるようになり、またそれらの声が、ますますまとまりのある、団結したものになっていけるのではと思います。また一歩レベルアップしたみなさんの演奏と共に、秋の演奏会に向けて一緒に向上していけたらと思っております。引き続きどうぞよろしくお願い致します。

ソプラノソロ　S12　葛西　裕子

東京都合唱祭は、私にとって忘れられない経験となりました。6 月初頭、配布された合唱祭の申込書を見ながら“楽しそうだけど、今はまだ無理かな”と考えていました。すると、先輩団員さんから、「できないところがあっても、少しでも早く発表の場を経験することが大事ですよ」とアドバイスいただき、申し込むことにしました。その時は、“ドイツ語難しいし間に合うかな。とりあえず言えないところは口パクでもいいか”などという、不埒な考えでした。

合唱祭練習に初めて参加した際に、突然ソロ歌唱の流れとなり、その展開についていけず、戸惑いと恥ずかしさが入り混じり、歌えずに止まってしまったこともありました。先生に、止まっちゃうのは怖いな～と言われ、さらに焦りまくり。たった二小節ほどが怖い！そんなとき、そっと背中を支えながら「大丈夫！できている

から心配しないで」と励ましてくださる同パート先輩方、練習後に励ましのお声をかけてくださる別パートの先輩方、本当にたくさんの勇気を頂いた練習期間でした。そして、言えないドイツ語歌詞は口パクでも、という気持ちは無くなり、毎日、短時間ですが、ドイツ語の発語練習に重点を置いて練習し、なんとか歌詞をつかえずに言えるようになりました。いつの間にか、間違いたくない、大切な演奏に穴を空けて台無しにしたくない、という気持ちになり、とにかく必死で歌った本番でした。ドイツ語の歌詞をあきらめずに練習できたのも、なんとかソロを歌うことができたのも、先輩方のおかけです。こんなにあたたかい合唱団の一員となれたことを誇りに思い、この場をお借りして、深く御礼申し上げます。そして、不安要素オンパレードな私を起用してくださった先生に感謝しています。ありがとうございました！

第 78 回東京都合唱祭に参加して

ソプラノソロ　S14　菊地　順子

コロナ禍で練習不足のため参加を見合わせたり、合唱祭そのものが中止になったりという事がありましたが、今年はようやく参加が実現いたしました。開催場所は第 1 生命ビル、新宿文化センターの 2 か所でしたが第 1 生命ビルでは着替えなし、リハーサル不可でしたので、新宿文化センターで申し込み、はらはらしながら結果を待ちました。

連絡がきたのは 5 月末日の 31 日、幸い文化センターをゲットしましたが本番までひと月しかなく、水曜練習日 2 回と特別練習 2 回をしていただきましたが、皆さんの集中もすばらしく何とか本番にこぎつけた感じでした。

今回は坂本先生がソロ部分を何人かに歌ってもらい、ソプラノから葛西さん・テノールから大野さんという有能な新人を指名できたのは大きな成果だったと思います。本番では隣で葛西さんがとてもきれいな声で歌いきってくれて本当に安心して心の中では「オッケーオッケー」と言っていました。自分自身はまあまあだったでしょうか。

講評と他団体の感想をまとめましたが、はじめはお世辞？と思いましたが、ほとんどお褒めの言葉をいただいたので、そう悪くはないのかもしれないと思います。

参加した 35 名は一応本番を踏みましたので、今後の定演のプラスの力になるだろうと思います。（自分も含め）35 名の皆様、お疲れ様でした。

『久しぶりの合唱祭』

アルトソロ　A28　深見　夏野

「懐かしい！」それが、会場に入った瞬間の思いでした。コロナ禍での中止があり、4 年ぶりの出場となった今回、会場の光や客席のざわめき、そして舞台で歌う方々の表情、全てが久しぶりで、またこうやって歌える日が戻ってきて本当かったと思いました。

人数も年齢も選曲もまちまちの合唱団が出演されてましたが、それぞれが歌うこ

とを心から楽しんでいる雰囲気が伝わってきて、合唱っていいなぁと改めて感じました。私たちも久しぶりの合唱祭を楽しんでるのが会場の皆さんにも伝わったようで、また、最後の厳しい（笑）特別練習の成果もあって、十分過ぎるほどのお褒めの言葉を頂きました。

でも、坂本先生の目指していらっしゃるのは「さらに上の演奏♫」…定演に向けて、気持ちをひとつに、もっといい演奏を目指せたらと思います。

新宿文化センターは改修工事に入ってしまうので、この会場では最後の合唱祭だったそうです。そんな舞台に立てて、思い出に残る日になりました。

テノールソロ　T04　大野　賢一

入団して 1 ヶ月しか経過しておらず、まだ充分に歌いこんでいない状況でのステージでした。個人練習も行いましたが、完全に暗譜できるまで追い込まなかったのが悔やまれます。

『おお雲雀』は、講評の先生には、テナーのパートはドイツ語の発音をお褒めいただきましたが、個人的にはまだまだ改善すべきところがあるように感じています。

『流浪の民』では 4 小節ですがソロパートを歌わせていただきました。練習では、音楽的にこなれていない歌い方をしておりましたが、「堂々と歌いなさい」という先生のアドバイスをいただき、当日はぶっつけ本番でしたが、今までで一番納得のいく歌い方が出来た気がしております。

今回のステージを踏まえ、定期演奏会に向けて、更なるステップアップを目指す時、個人としては、音源を利用して弱点の補強、You Tube を使って、歌詞の発音や曲想のブラッシュアップなどの下準備を確実に行う必要を感じています。

そして団体練習で、先生のご指示を全員で追及し"深い合唱"ができるように、パート内のピッチを合わせたうえで、全体の音楽表現に磨きをかけられるように、歌う喜びを感じながら、みんなで進んでいきたいと思っております。

B09　冨野　隆司

東京都合唱祭には初めての参加でした。定期演奏会で演奏する曲だったので、軽い気持ちで参加を申し込みましたが、参加人数が約 30 人と少ないことも有り、特別練習では強弱・緩急の付け方や子音の発音等、密度の濃い指導を受けることができました。流浪の民のソロパートの突然のオーディションで冷汗をかき、2 日前の最終練習では 2 チーム（約 15 人ずつ）に分けての指導で大人数の時には隠れてしまうミスもバレバレとなり、ひとりひとりの声の責任の重大さをひしひしと感じました。

合唱祭は大学の部活の合唱団から平均年齢 70 歳超えの合唱団まで様々な合唱団が参加していて、10 人程の混成合唱団もあり、出演者各人が自分のパートを堂々と楽しんで歌っていたのが印象的でした。多様なスタイルの合唱が聴け、合唱の奥の深さを感じつつ楽しい時間を過ごしました。

まだまだ音取りで四苦八苦しているのが現状ですが、もっと合唱の楽しさを味わえるように、地道に努力を続けたいと思います。 東京都合唱祭参加の機会を与えて下さりありがとうございました。

ベースソロ　B06　神保　仁士

何はともあれ音楽が止まらずに、大過なく役目を果たせたようで安堵しています。

曲の長さに関係なくソロを歌う場合は千回の練習が必要、と指導を受けました。その心は、周りで何が起きようが動じることなく役目を果たせる、という事だそうです。本番中は何が起きるか分からないから、不測の事態が起きても対応できるようにしておく必要が有る、とのことです。

この指導を自分なりに解釈すると、自信が付く、迷いや不安が無くなる、曲の理解が深まる、力が抜ける、緊張しない、こんな理解ですかね。

実際に最後の言葉が「ぶ」か「び」で練習中は何時も迷っていましたが、本番は全く迷うことなく間違えずに自然に歌えました。

正直千回の練習は重ねませんでしたが、何事によらず練習や努力は己を裏切らないことが改めて自覚された次第です。

お楽しみコンサートの報告

ボランティア企画会

ボランティア企画会が高齢者施設で繰り広げる「お楽しみコンサート」は、199 回までは 30 名前後の参加者で順調に開催されてきました。

2020 年に入り、突然コロナという伝染病により、合唱団に連動して練習もできない状態になり 2 年半が過ぎました。

その間再会の準備を重ねてきましたが、会員は高齢化などで 2022 年の再開時には大半が復帰できずに、残ったのは 10 人ほどになりました。高齢者施設側も利用者が減り、ボランティアの受け入れが 1 度に 10 人前後となった為、実はちょうど良いバランスを保つことになりました。

ボランティア企画会に集まる人は、

〇自分のできることを通して人に喜んでもらいたいと思い、

〇人のために役立つことができた充実感、感謝されることの喜びを知っています。

社会貢献ですね。

〇自分の親が施設などで世話になった経験があり、恩返しの気持ちを持っています。

〇実際に施設の高齢者と言葉を交わしたり、自分の親と似ている人がいると、感動することがあります。

そんな私達が常に心がけていることは、

１、世田谷区民合唱団の顔（代表）であるから、品格と合唱のレベルを高く保つこと。

２、聴く人を喜ばせることは、自分達が一生懸命に楽しむこと。

３、全員がソロなどの役割を担い、助け合うこと。
４、同じ考えの人は誰でも、いつでも受け入れ、仲間の悪口を言わないことです。
　どうぞあなたもご一緒に歌いましょう。

編集後記

合唱祭に参加し、たくさんの団体と交流出来ましたことは大変良い経験になりました。今回は、二人の新人団員がソロパートを歌いました。新鮮で伸びやかな歌声に感心いたしました。頼もしい限りです。先輩団員の私も喉の鍛錬を欠かさず負けずに頑張りたいと思います。何はともあれ、無事に最後まで歌いきることができ満足できるステージでした。コミュニケーション委員の冨野さんも初めての合唱祭の感想を書いています。次は私達の大事な定期公演です。更に気を引き締めて練習に邁進しましょう。

今回テノールの藤原氏から靖国神社での活動を寄稿していただきました。団員の皆様、世田谷区民合唱団員の活動の中でDialogに掲載できるものがございましたら、纏めて寄稿ください。宜しくお願い致します。

記：柴田

特別記事

靖国神社戦没者慰霊祭の出演

T11　藤原　利親

東京都合唱祭の正にその当日、令和５年度大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭が催され、約 100 人の参列者を迎え、男声カルテット「ガバーガバ」（T1 藤原、T2 小熊、Br 山田、Bs 神保）が奉納演奏をさせて頂いた。

式典は国歌斉唱、神職の祝詞、代表の祭文奉上に続き、カルテットのアカペラで「夏の思い出」「椰子の実」を歌い、最後にトランペットの伴奏で「同期の桜」「海ゆかば」が斉唱された。参列された方々から「心に沁み、涙が溢れました」と賛辞を頂いた。その後別館で直会（懇親会）が開かれ、その席でも歌声が披露された。厳かに進められた神殿とは打って変わって和やかに、ユーモアを交えてのメンバー紹介と合唱で盛り上がり楽しい一時と成った。豪華な食事とお土産、その上過分なお車代を頂き恐縮、後日主催者からご丁寧な令状が届いた。

靖国神社を後にして、速足で東京都合唱祭の会場へと駆けつけ、直ちにリハーサル。他の団のレベルの高い演奏に驚かされたが、我々の演奏もピアニストと選曲に恵まれ、ドイツ語の入った響きとソロの新鮮味で好評を博した。左右の人差し指を唇の端に押し当て「く」の字の形で発声する指導が功を奏したのか、先ずは良い演奏となった。

写真：藤原氏提供